

# 抄遊交

コラムニストとして活躍する小田嶋隆とは、小中高を通して同級生である。といっても都立小石川高校（現小石川中等教育学校）卒業後の30年間ほどは没交渉だった。再会したのは

小田嶋は成績も学年トップを争う秀才だった。手先も器用で、ピアノやギターが上手だった。アナグラム（入れ替え語）の才能は天性のもので「小石川（こいしかわ）は賢いわ（かしこいわ）」などとやって、周囲を楽

た。再会したのは彼が担当するラジオ番組に招かれた時のこと。それから対談や雑誌の企画などでたびたび顔を合わせるようになった。

りあんとしきりに問いかけて彼を困らせたという。一方のわたしは「宇宙の果ての向こうには何があるか」としきりに問いかけて彼を困らせたという。

## 主義性知反

小田嶋は言葉遊びにたけた辛口の批評で、政治でもマスコミでも芸能でも、その道の権威を片端から斜めに切って見せる。その手腕は圧倒的で、ときにみずから「地雷を踏み」にく。そんな型破りな彼と、

森本「反知性主義」に関する著作があること。ネガティブな意味で使われがちだが、知性と結びついた権威に反対する積極的な意味を持つ言葉だ。わたしは、彼

神学が専門のわたしという組み合わせは意外に思われることも多い。

と・あんり＝国際基督教大学副学長）